

男女共同
参画社会づくり

いきいき
ナイスパーソン

菅野 トモ子 さん (東福沢)

自然体だから、
特別なことは
ありません。

町の男女共同参画社会づくりの
取り組みにおいて「いきいきナ
イスパーソン」に選ばれた菅野
トモ子さん。何事にも明るい笑
顔で取り組む菅野さんに、これ
までのコトと、これからのコト
についてお話を聞きました。



羽山の森美術館運営協力員を務める菅野さんは、週2回ほど美術館でスタッフとして活動。



たのしい教室の安全管理委員も務める菅野さんは、子どもたちに大人気。「私たちは、子どもに勉強は教えません。この子たちはちゃんと自分で勉強ができるもの。その代わり、子どもたちが勉強を終えたら、一緒になって遊んだり、おやつを食べたりして楽しんでいます」と菅野さん。この日も、教室には、子どもたちの笑い声と大人の笑い声がずっと響き渡っていました。

【男女共同参画社会づくり】

男 女が共にその能力や可能性を存分に発揮できる社会を目指して、町や企業、そしてみなさん一人ひとりが行う取り組みが「男女共同参画社会づくり」です。町は、この取り組みを進めるため、推薦のあった方々の中から、いきいきと助け合う夫婦の模範となる夫婦をナイス・パートナーとして、いきいきと輝く個人をナイス・パーソン、家族をナイス・ファミリーとして顕彰し紹介しています。

これまで、特別なことをしてきたわけではないから恥ずかしいー。

菅野さんは、笑顔で「いきいきナイス・パーソン」に選ばれたことへの感想を、そう述べてくれました。

現在、羽山の森美術館運営協力委員をはじめ、福沢福寿会の女性部長、地区公民館の運営委員など、地域の中で積極的に活動している菅野さんですが、地域活動のきっかけはとても小さなことだったと話します。

「今では色んなことをやっているけれど、最初は誰かに声をかけられて、やってみようかなと仕方なく始めたようなものがずっと続いているんです。でも、やってみると一人で家にいるより、みんなで一生涯懸命やっているほうがやっぱり楽しい。今では、地域での活動がこうして私の生きがいになっているわけですから、あの時、声をかけてくださったみなさんには、今では本当に感

謝していますよ」。そう笑う菅野さんは、自身を「おせっかい」と評します。

「夫は10年前に他界してしまったのですが、家では、家業の養蚕農家を継いでから、凍み豆腐製造、水稲、こんにゃく芋栽培、工事現場での作業など、様々なことをやってきました。昔から、じつとしていたより、動いているほうが好きだったのでしょうね。あと、どうしても色んなことが気になってしまう「おせっかい」の性格。何をしていても、気になって自分が手を出してしまうのも、こうして地域の活動を続けてこれた理由の一つかもしれません」と話す菅野さん。菅野さんに、これまでの活動の中で嬉しかった思い出を聞くと…、「あります、あります。たのしい教室に來ていた子どもたちが、町で私を見

かけると「おばちゃん、おばちゃん」って声をかけに来てくれて…。もう10年も前からやっているから、男の子は、大人になって分らないこともあるんだけど、ああ、ずっとやっていて良かったと思う幸せな瞬間です」と穏やかな表情で答えてくれました。最後に菅野さんにこれからの抱負を聞くと、

「美術館もそうだけど、公民館のレクダンス、グラウンドゴルフなんかもそう。みんなで何かをして笑っている時間が好きだから、これからもずっとこの場所と時間を大切にしていきたい。自分の好きな人に囲まれて、自然に過ごしていきたい」と話してくれました。

きっかけは小さなこと。私たちが、いきいきと輝くきっかけは、意外と身近なところにあるのかもしれない。

推薦者の声

男女共同参画
推進委員



高橋 孝一さん
(西福沢)

トモ子さんとは、羽山の森美術館と一緒にスタッフをしています。いつも明るく、裏表がないトモ子さんは、みんなの人気者です。また、何をするにも積極的で、自分から行動してくれるので助かっています。スタッフを代表して「いつもありがとうございます」と伝えたいと思います。年齢を重ねれば重ねるほど、「外に出たくない」と考える方が増えるのは仕方のないことだと思うのですが、外に出て、自分ができることで、こんなにも輝いている方もいます。今回のトモ子さんの話が、一人でも多くの方が、いつまでも地域の中でいきいきと輝くきっかけになればと思い、推薦させていただきました。私もトモ子さんを見習いながら、体が続く限り、地域活動を積極的にやっていきたいと思っています。これからも末永く、明るく笑顔で活動をしていきましょう！